

**議第14号平成30年度福山市水道事業会計予算について、日本共産党の討論を行います。**

本会計予算は、市民に安全な水を安定的に供給する事業に関する予算です。

福山市水道局は、新年度（仮称）広島県水道広域連携協議会に参加するとしています。

広島県は、人口減少等に伴い、水需要や給水収益が急速に減少し、水道施設の老朽化による更新需要が大幅に増加することで経営が急速に悪化することから、広域連携しようとしています。

県の間接報告では、今後水需要が平成27年度の必要水量、日量124万トンが40年後に106万トンに減少することから、浄水場の統廃合が示されています。これまでの濁水の経験からも、安易に統廃合はすべきではありません。

広島県が進める広域連携協議会は、メリット、デメリットを明らかにし、統合に参加するべきではありません。

新年度、中津原浄水場の運転管理を外部へ業務委託、加圧管理の見直し業務や再任用職員へ置き換えるなどで職員を前年度比6人、再任用職員は2人減員します。

業務委託とリストラを行うことは、安定的に安全な水を供給する大切な公営企業の培ってきた技術等の継承をできなくするものです。

安易に業務委託を行うべきではなく、直営を貫くべきです。

以上述べた観点から、本予算に反対して討論いたします。